私たちが地域を元気に！

町は、地域で生活し、地域ブランド化などの地域おこし支援や各種地域協力支援を行う「地域おこし協力隊員」２人を委嘱しました。

地域おこし協力隊とは

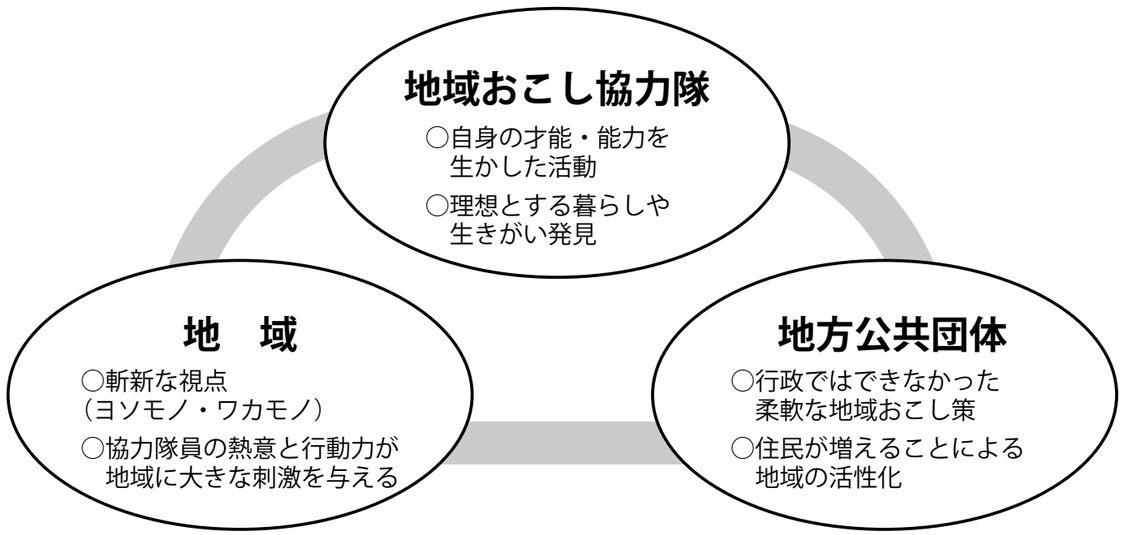
地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化が著しい地方において、都市部の人材を新たな担い手として受け入れ、地方公共団体が地域おこし協力隊員として委嘱します。

地域おこし協力隊は、一定期間生活の拠点を地方に移して、地域ブランドや地場産品の開発、販売、ＰＲなどの地域おこしの支援を行う「地方協力活動」に従事しながら、あわせて定住・定着を図る制度です。隊員の活動期間は、おおむね１年以上３年以下で、隊員の活動経費は、総務省が取り組みを行う地方公共団体に対して、特別交付税による財政支援を行います。

この地域おこし協力隊制度は平成21年度にスタートし、全国で31団体、89人の隊員が活動を開始。平成27年度には６７３団体、２６２５人に拡大しました。

町では、今年度初めて同制度を活用し、２人の地域おこし協力隊員を委嘱しました。主な活動内容は①「農畜産物・産品などの６次産業化やブランド化の推進に関する活動」と②「移住・定住促進のために必要な施策の推進に関する活動」です。今月号では、委嘱された２人の隊員を紹介します。

地域おこし協力隊導入の効果
～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取り組み～



Interview

かどなが
門永　貞行さん（64歳）

出身地　鳥取県境港市
経歴　東京の輸入専門商社での企画営業、工業製品製造メーカーで輸入業務に携わる
活動内容　①米の輸出　②農産物の６次化　③農産物のブランド化

今年5月23日から、町農林課に配属されました門永貞行です。

これまで、輸入専門商社と建設用ゴムホースの製造メーカーで、産業機器などの資材の輸入や国内販売業務に携わってきました。

昨年11月に退職した後、東京や埼玉などの関東圏で、輸出入に関係する仕事を探していたところ、インターネットの記事で、米の輸出に関わる地域おこし協力隊の募集を見つけました。私は平成25年1月から平成27年8月まで、会津若松市に単身赴任で住んでいたことがあり、会津に縁を感じ、協力隊に応募することを決めました。

貿易業務の経験はありますが、米や野菜などについては、これまではただ食べるだけで、栽培方法や販売方法、現状における課題など、全く知識も経験もありません。また、官公庁での勤務経験がないので、戸惑うところも多いです。しかし、職場の人や、町民に色々なことを教えてもらいながら、これまでに培ってきた経験を生かして、「いなわしろ天のつぶ」の輸出拡大や農産物の6次化、ブランド化に貢献できればと思っています。

これから町の良さをたくさん発見して、広く発信していきたいと思います。よろしくお願いします。

こくぶん
國分健一郎さん（37歳）

出身地　須賀川市
経歴　動物用医薬品メーカーに勤務、2010、11、15年カーリング福島県代表
活動内容　①空家の調査　②移住定住促進業務

7月1日より町民の仲間入りをさせていただき、地域おこし協力隊として活動している國分健一郎です。

前職では、展示会や広告、企画などの業務を担当していました。２０１０年に動物感謝の手紙コンテストを立ち上げ、２０１３年に手紙をまとめた書籍「ありがとう46の物語」（扶桑社）、２０１４年に「犬に贈るラブレター」（TOブックス）、２０１５年に「ハートフルコミック会えてよかった」（竹書房）を発行しました。今年の冬に第4弾が発売予定となっています。

これまで、狭く小さい業界を通じて、世の中の体温をちょっとだけ上げてきたつもりですが、猪苗代で新たなことにチャレンジするため、移住を決めました。

今年度は、空き家の調査を担当し、来年度以降は町と町に好意をもってくれている人とのパイプ役になって、再利用可能な空き家などを活用して、新たな人の流れを作りたいと思っています。

現在、もっと町のことを知るために、いろいろなことを聞いたり調べたりと勉強中です。まだまだ慣れないことばかりですが、今後多くの町民や町外の人と交流し、地域おこしに寄与できるよう精進します。どうぞよろしくお願いします。